



## 地球の未来を対馬から考えて行動する SDGsに取り組む私たち



数年前から新聞やテレビで「SDGs」という言葉が登場し、私たちの生活の中でもよく目にするようになりました。広報つしまでも昨年からの取り組みについて紹介してきました。

# Sustainable Development Goals

||  
持続可能な

||  
開発

||  
目標

SDGsは、2015年に国連が定めた世界を変えるための目標で、2030年までに達成すべき17のゴール（目標）が示されています。私たちの生きる世界は、このままの暮らしを続けていくと、環境的にはもちろん、経済的にも破綻してしまうという危機的な状況におかれています。その未来を変えるために、SDGsに取り組むことが求められています。

## SDGsを考えることは、対馬の未来を考えること

「世界を変えるための目標」というと「難しい」や「自分には関係ない」と思う方も多いと思います。しかし、17の目標を達成するために掲げられた169の具体的な目標には、私たちが普段の生活の中で感じている問題を解決するために行うことや、すでに取り組んでいることなどが多く含まれています。対馬の未来を考えて取り組むことが、SDGsの達成につながっているのです。

## SDGsに取り組んでいる対馬の人たち



漁師 鎌田 衛さん

### 新たな学びから実践につなげる

対馬にゆかりのある研究者らとともに、対馬の課題について学び行動する場としてスタートした対馬グローバル大学。漁師の鎌田衛さんは、昨年度学生として参加しました。

これまでも藻場再生に取り組んでいて、自分の活動にプラスになると思って受講したのがきっかけです。所属した環境ゼミでは、研究者の先生の知識だけでなく、受講している他の生徒の皆さんの、漁師では思いつかないような考え方は、私にとって大きな収穫で、とても有意義な時間を過ごすことができました。

「物事に行き詰ったら、新しい知識を詰め込むことで道が開ける」対馬で生活しながら、広い視野、新しい視点を得ることができるグローバル大学は私のこれからの生き方に大きな影響を与えてくれました。



今年度から対馬市SDGs総合研究所の市民研究員としての活動も始める

### 対馬の海から世界の食を考える

夫婦二人三脚で始めた水産業からスタートし、現在は飲食事業などを手掛ける犬束ゆかりさん。これまで食べられていなかった魚を活用することで、対馬の海に恩返しする取り組みを行っています。

子どもの頃から海が好きでしたし、今も海から頂いた恵みで生活しています。その中で、海が変わっていく姿をなんとかできないかと取り組み始めたのが、海藻を食べる魚の活用でした。食べられず駆除されるだけのイヌズミを、お店で出せるように試行錯誤を繰り返して誕生した商品は、今や多くのお客様に選んで頂ける一品になりました。このことは、魚を獲る漁師さんが喜ぶだけでなく、対馬の人たちの1食がこの商品に置き換えられることで、世界の食料供給の問題にもほんの少しですが貢献することができます。私たちの生き方を通して、次世代を生きる子どもたちにメッセージを送り続けることが、これまで受けた対馬の海への恩返しだと思っています。



食害魚イヌズミを商品化「そう介のメンチカツ」



(有)丸徳水産  
犬束 ゆかり専務



株式会社 白松  
権藤 正展 工場長

## 海と森の恵みで美味しさを届ける

対馬で作る塩を販売している株式会社白松は、10年前にバイオマスボイラーを導入して塩づくりを続けています。その塩は全国チェーンのレストランで使われたり、スナック菓子の味付けに使われたりと大活躍しています。

釜炊きの塩にこだわり、質の高さには自信を持っています。木のチップを燃やすバイオマスボイラーは、これまでの重油を使うボイラーよりも燃料代は安いですが、灰の処理など手間はかかります。しかし、環境に対して高い関心を持っている企業からの反応が良く、取引にもいい影響が出ているので、そういった部分でも導入して良かったと思っています。

対馬の塩がおいしいのは、島の山々からながれてくる豊富な栄養分があってこそです。ですから、そんな山を大切にしながら塩を作ることができていることを嬉しく思っています。



対馬のおいしい塩を  
作り続けるため

## 対馬の美しさを守る行動を次の世代につなげたい

対馬の海岸漂着ごみ問題に取り組む一般社団法人対馬CAPPAは、世界的な社会問題である海洋プラスチックごみに対馬から向き合うことで、次の世代に対馬で生きることを意味を伝えようとしています。



日本や韓国の企業・団体とごみ拾いを行い、対馬の現状を知ってもらう

内地にはない、対馬だからこそその仕事をするおもしろい会社があったらいいねという思いが形になりました。対馬の海ごみのことは、私たちに聞いてもらえばなんでも分かるというレベルに高めていくことが目標です。現在、海ごみの問題は、世界中の関心事であり、対馬での行動に多くの人が注目しています。そして、この問題は、若い人たちのエネルギーがなければ乗り越えられません。私たちは、対馬の若者たちが、未来に向かって進んでいくための手助けができればと思っています。



一般社団法人 対馬CAPPA  
上野 芳喜 代表理事



良い土作りのため、根気強く作業を行う

## 子どもたちと一緒に環境問題を考える

鶏鳴幼稚園では、10年以上前から家庭で出た生ごみを集めて堆肥を作り、園内で野菜や花を育てています。作った野菜はカレーや焼きいもにして食べ、環境についておいしく学んでいます。

家庭で生ごみを分けたりするのは大変ですが、慣れたら自然とできるようになりました。半年ほど毎週1回作業していますが、園児たちも良く手伝ってくれます。生ごみが栄養になり、おいしいお野菜ができたり、きれいな花を咲かせてくれたりすることを、子どもたちは園での生活の中で肌で感じてくれるのでうれしいです。

鶏鳴幼稚園PTA 齊藤 恵 母親委員長



収穫した野菜で作ったカレーはおいしいね!

日常生活のちょっとしたことも、**実**はSDGsにつながっています



電気をこまめに消す



節水する



汚れを落として分別する



地域の活動に参加する



食事を残さず食べる

# 未来に向かって、行動を始めた対馬の若者たち

地球規模の課題について、身近な問題から学びを始める対馬の若者たち。

研究者や大人任せにせず『わがもと』として取り組んでいます。

※わがこと…自分に関係のあること、自分のこと

仁田中学校では…



漂着した大量のプラスチックごみ

昨年から海に関する学習を進めています。今年度は2年生が漂着ごみについて学習を始め、実際に漂着ごみを回収したり、対馬市や企業の取り組みを調べたりして問題に向き合っています。



処理の様子を見学



伊藤忠商事(株)へのインタビュー

## 海ごみから世界のプラスチック問題を考える

私たちの生活の中に欠かせないプラスチック製品は、リサイクルが求められています。しかし、リサイクルがどのように行われているのかはあまり知られていません。そこで、海ごみとして大量にプラスチックごみが流れ着く対馬の取り組みを元にして、世界の課題に向き合おうとしています。



流れ着くプラスチックごみを見て、日ごろの生活を見直すきっかけになりました。これから色々なことを調べたり、みんなで考えたりして、その結果をたくさんの人たちに知ってもらえるように取り組んでいきます。  
2年 堀 心人さん

対馬高校では…



20人以上の高校生が参加

今年から、希望する3年生が対馬グローバル大学の高校生ゼミに参加して学習しています。社会が抱えている課題をどのように解決していくのかを学ぶこのゼミでは、これからも対馬で豊かな暮らしを送るために必要なことが何なのかを考え、提言として市長へ発表するという取り組みを行います。



グループで話し合いながらテーマを見つける

## 対馬の課題から自らの考えるテーマを見つける

対馬高校の生徒は、これからの社会生活が持続可能な社会を作ること前提に成り立つという価値観を身につけるため、将来の進路に関係のある課題についてテーマを決めて、仲間と協力しながら学びを深めています。また、オンラインで島内外を結んで学習することで、場所の制限を受けない平等な学びに参加できるというSDGsの目標をクリアする取り組みにもつながっています。

私はこのゼミを通して、対馬が抱える教育や子育てに関する問題について学んでいきたいです。グローバル大学は、海や山、地域などで学習を行うということで、都市部よりもより深い学びができると思います。私たちの学びが、少しでも対馬のためになれば良いと思っています。  
3年 檀浦 麻菜香さん



地球に住む全ての人々が安心して幸せに暮らし続けることができるように、対馬市では、社会や環境など現在抱えている様々な問題に対し、市民の皆さんが主体的に問題に取り組むことができるよう、SDGsの17のゴールを関連付けながら取り組みを行っていきます。